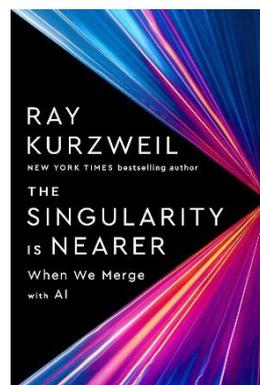


2024年9月ハイパーカレンダーレポート

おおいた AI テクノロジーセンターでは、9月9日から大分高専にて3日間通しの [AI活用人材育成研修会](#)を開催した。対象は3日間すべてに参加可能な県内企業や団体の従業員等、AI（ディープラーニング）を最初から学びたい方で、講師の木本智幸氏（大分高専 電気電子工学科 学科長／教授）は、以前から AI への造詣が深く、初心者への教育については評判も効果も高く第一人者と言える。ディープラーニングとは何から始まり、AI フレームワークの環境構築の仕方、基礎的 AI モデルを用いた画像識別への適用法を学び、最終的には実用性能を引き出す大規模 AI モデルの利用法まで。とにかく手を動かして実践して修得するセミナーとしている。受け身の座学ではなく、基本をしっかりと学び、AI への糸口を作って、自分自身で発展的学習ができるようになることを目的とするものだ。このセミナーでは、画像識別 AI の中でも基礎的で応用範囲の広い CNN（Convolutional Neural Network）を中心に学び、様々な応用例を紹介すると共に、物体検出モデルについても触ることができる。またセミナーで利用する AI フレームワークは、近年急速に人気が高まってきている PyTorch を利用する。

AI のレイ・カーツワイルの [新書「シンギュラリティは近づいている：AIと融合するとき」](#)、英語版が今年6月に、日本語版が11月に発売される。加速度的な技術進歩による人間社会の変化を予測して、当初は AI が人間の知性を超えるのは 2045 年と予測、その後 2029 年に修正した。あと 5 年後に迫っているが、そもそも人間の知性を凌駕してしまうのがシンギュラリティという特異点ではなく、私たちの知性が数百万倍に拡張し、生物学的限界を超える特異点がシンギュラリティなのである。しかしながら、それがどのように実現するのかは誰にも分からない。ナノロボットによる原子レベルでの世界の再構築、120 歳という生命の限界、脳のクラウド接続による知性拡大、すべての産業におけるイノベーションで世界人類が幸福になる指数関数的なテクノロジー成長、AI が雇用に与える影響や自動運転車の安全性、AI に携わることで 60 年の研究の集大成が今後到来する AI による社会革命を予言する（イントロダクション/第1章 人類は六つのステージのどこにいるのか?/第2章 知能をつくり直す/第3章 私は誰?/第4章 生活は指数関数的に向上する/第5章 仕事の未来:良いか悪いか?/第6章 これからの三〇年間の健康と幸福/第7章 危険/第8章 カサンドラとの対話）。

重要なのは人類が AI との融合でもたらす新たな世界であって、現在の社会の情勢や活動における人間の格差や物質の格差の延長線上ではない。



（文責：青木栄二）